

村重が信長に謀反を犯さなかったら今の伊丹はどんな街になっていたんだろうか？

村重は摂津池田家（荒木高村）の嫡男として池田で生まれた。

時の織田信長に見初められ、秀吉や光秀、家康らを逐う武将として台頭し、
1574年に二百年以上も伊丹城に君臨した前城主の伊丹親興^{ちかおき}を倒して伊丹城に入城、
摂津一帯の高槻、茨城、能勢、三田、尼崎、大和田（大阪）、花隈（神戸）に支城郡を
構え、三十七万五千石の摂津の國の戦国大名となった。

伊丹城を有岡城と改め、JR 伊丹駅西側一帯に南北1.5キロ、東西の広い所で600メートルの天守を頂く総曲輪の難攻不落と云われた城郭を築いた。（現城跡は国指定史跡である）

1579年信長の謀反の怒りで、一年余りの攻防の末、信長の焼土作戦で西は武庫川の手前まで、南は尼崎猪名寺まで焼け野原となり、有岡城は陥落する。村重は家臣を見捨てて尼崎城に逃れた。そして信長が尼崎城や花隈城の明け渡しの条件で、家臣や妻子を助けると申し出たが、村重はこれを受け入れなかったもので、戒めのため信長は家臣512名を尼崎の七つ松で焼き殺し、家臣や村重の妻「たし」など36人を京都六條河原で斬首した。七つ松の惨状を記した信長公記は下記のものであった。

（百二十二人の女房一度に悲しみ叫ぶ声、天にも響くばかりにて、見る人目もくれ心も消えて、感涙押さえ難し。これを見る人は、二十日三十日の間はその面、影身に添^そいて忘れやらざる由にて候なり。 ）

また「家四つに取り籠め、草をつませられ、焼き殺され候。風のまはるにしたがいて、魚のこぞる様に上を下へとなみより……」と地獄の様が書かれている。

村重がなぜ信長に背いたかは諸説があるが、本当はよくわかっていない。

- 1、足利義昭や石山本願寺とも親しかったため、両者の要請を受けて信長に反逆した。
- 2、家臣（中川清秀という）が密かに石山本願寺に兵糧を横流ししていたため、それが信長に発覚した場合の処罰を恐れての謀反であったという説。
- 3、村重は信長を近江の瀬田で出迎えたが、この時に信長が刀の先に突き刺して差し出した餅をくわえさせられるという恥辱を味わさせられたという怨恨説。
- 4、村重の急速な出世をねたんだ明智光秀が有りもしない事を信長に進言したために謀反の疑いを受けたと思った重村が、信長の成敗をおそれて、自ら先に反逆に打って出た説。（これらの事情を知る秀吉らは、事後村重を厚遇しのでは？）
- 5、石山合戦では先鋒を務め、播磨国衆との繋がりもあったが、本願寺攻めの指揮官が佐久間信盛になり、播磨方面軍も羽柴秀吉が司令官に就任したことから活躍の場がなくなったからといわれる説。

村重は稀に見る茶人であった

突如信長に叛旗をひるがえし、村重と家臣や荒木一族六百七十人の悲劇に終わった有岡城陥落劇はその後は廢城として今日にいたっている。

有岡城から逃亡した村重は、茶器の名器「立桐筒」や「兵庫壺」の閔品を持参し長州の毛利方に献上し（？）備後の国の尾道にて剃髪して”**道薫**”と号した。

そして、信長が光秀に討たれ豊臣秀吉の世になり、何故か秀吉に招かれて、大坂の堺に住み、秀吉の近侍として、茶の湯の名だたる名士の今井宗易、宗及、有閑老、宗二、らの面々と大坂城で築州様（秀吉）の茶会に列席している。

なぜ秀吉が信長に叛旗を掲げた敗将の逃亡戦国大名の村重をここまで厚遇したかわ、やはり同じ信長の家臣として働いていた頃の心中の深い処に根源があろうと想う。

村重はその後 病で1586年に52才でこの世に別れをつける。

どちらにしろ村重は秀吉や家康と共に肩を並べるぐらい戦国大大名として君臨し、その一族が関ヶ原で東西どちらに従っていたとしても、ポルトガルの宣教師”フロイス”も絶賛した名城の伊丹有岡城は今日もその勇姿を遺していたと思います。

有岡城跡の領域

大阪国際空港

至豊中市

猪名川

至川西市

JR福知山線

伊丹

①有岡城跡

②猪名野神社 (野宮砦跡)

③外郭線

段丘崖

段差

阪急伊丹線

新伊丹

至尼崎市

鴨塚砦跡

有岡城跡の領域

《国史跡の指定範囲》

①有岡城跡 (主城跡)

②猪名野神社 (外砦跡)

③外郭線 (外構跡) = 太

以上